



ハマボウ



夏本番!! プールで笑顔のみなみしま保育園児たち

平成17年度 一般会計・特別会計・企業会計をあわせ 総額1,144億円の予算を可決

主な内容 (ページ)

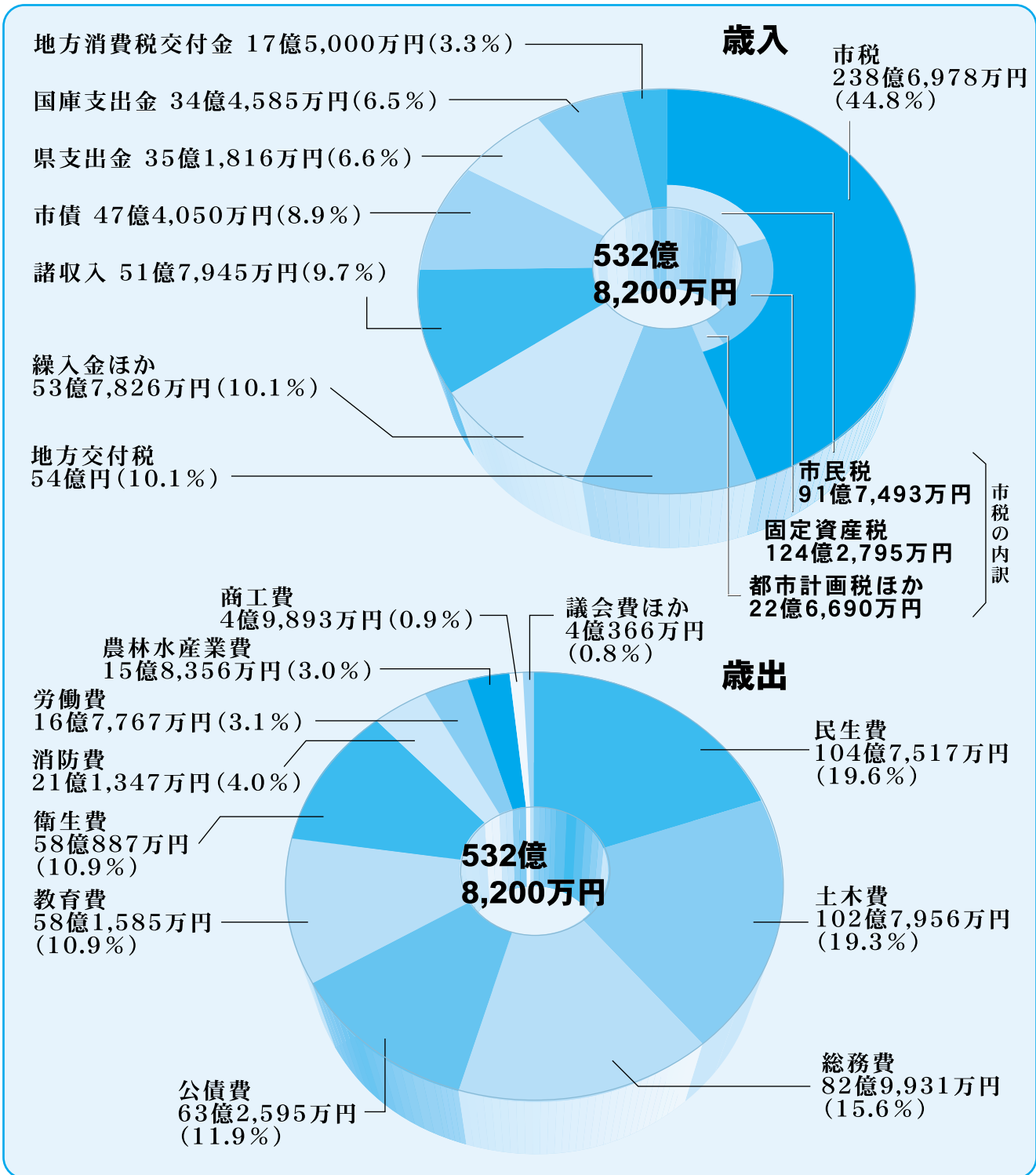
- 一般会計予算(説明・討論)……………2~3
- (仮称)総合福祉会館関連予算
についての決議(説明・討論)……………4~5
- 総合計画審議会条例 臨時行財政改革
推進会議条例 名誉市民条例等……………5
- 特別・企業会計予算(説明・討論)……………6~7
- 一般質問(18人) 意見書……………8~15
- 審議結果一覧表 9月定例会の予定……………16

6月定例会

市議会は、平成17年6月定例会を6月6日から30日までの25日間の会期で開催しました。本定例会では、市長提出の平成17年度各会計予算など32議案を慎重に審議し、採決の結果、いずれも原案のとおり可決・承認・同意しました。また、議会推薦の農業委員会委員を決定するとともに、議員発議による「(仮称)総合福祉会館関連予算についての決議」、「地方六団体改革案の早期実現に関する意見書」など4件も可決しました。

なお、一般質問は、6月22日・23日・24日・27日の4日間にわたり18名の議員が行い、市政のあらゆる分野から市長・教育長の考えをたどりました。

8,200万円を可決



平成17年度 一般会計予算 532億

新市の速やかで一体的な

発展と融和を推進

市当局説明要旨

予算総額は532億8、200万円、旧5市町村の16年度当初予算総額に比べ35億3千万円、6・2%の減額となりました。なお、16年度は特殊要因として減税補てん償の借りかえ分として約28億円が計上されていまして、これを控除した通常ベースでは、総額で7億700万円、1・3%の減少となります。

合併という特殊事情に加え、三位一体の改革や経済社会状況等により歳入が伸び悩み、厳しい予算編成となりましたが、●新市の速やかで一体的な発展と市民の融和に必要な事業、●市民生活に密着した事業や市民の安全を守るための事業、●将来の発展に必要な基盤整備事業等について、可能な限り予算化しました。

歳入の主な状況は、その4割以上を占める市税は約2・9%増の238億6、978万円、地方交付税はほぼ16年度並みの54億円、市債は後年度負担に配慮し慎重に対応した結果、16・9%減の47億4、

050万円となりました。

歳出では、●総務費 臨時行財政改革推進会議の設置、天平のまちへのサテライトスタジオ設置等、●民生費 きめ細やかな在宅福祉サービスの展開、子育て支援センターの運営等、●衛生費 南部地区への救急医療機関設置の検討、新ごみ処理施設建設に向けた具体的検討等、●農林水産業費 生産調整対策、水産業の振興策等、●商工費 新たな企業誘致や観光振興ビジョンの策定等、●土木費（仮称）大藤下神増線の着手、浜松小笠山線の概略設計、海岸通線・堀之内駒場線・下本郷赤池線・上神増三家線等の幹線道路改良、遠州豊田パークングエリア周辺土地画整理事業や磐田駅前地区市街地再開発事業への支援等、●教育費 小学校体育館耐震補強の実施設計、学校自慢づくり事業等を推進します。

賛成30（公・無）、反対3（共）により可決。

討 論

負担増を招く増税路線 市民サービス後退の予算

反対（共産） 国の法律改正

に伴う市税条例の改正により、配偶者特別控除の一部が廃止され個人市民税の負担が増加している。これは国保税や介護保険の負担増にもつながるもので、市民生活に大打撃を与える。国の増税路線に批判する姿勢を持つべきである。

生活道路改良工事業費は約3億円であり、旧5市町村の要望と比較し明らかに縮小されている。また、一部町村において一般財源で支給していた介護手当が廃止され、国の制度である家族介護慰労金のみとなったこと、長寿祝い金対象者の縮小もあり、これらはサービスの大幅な後退である。

さらに、民間委託の推進等を図る行革は公的責任を後退させるもので賛成できない。木造住宅の耐震補強工事への上乘せ助成など評価すべき点はあるが、予算全体を見た場合、問題点が多く本予算案に反対する。

堅実予算を評価 的確な予算執行を期待

賛成（無所属） 17年度予算

案は、16年度の旧5市町村予算総額と比較し実質1・3%減の堅実予算である。

配偶者特別控除上乘せ分の廃止等は、国の税制における施策として決められたものである。介護手当は、要介護者を社会全体で支える介護保険制度との整合性を図るため、手当金から介護サービスへ移行されたもので、紙おむつ購入費助成等に手当金を上回る予算措置がされており理解する。長寿祝い金は節目の年齢支給に統一されたが、減額分は移送費助成等の高齢者福祉サービスに増額されている。

生活道路整備は事業の必要性、優先順位に配慮する中で適時適切な対応をお願いする。足腰の強い自治体を確立するため、行革には継続して取り組む必要があり、安全・安心・暮らしやすい新市を築くため、的確な予算執行を期待し本予算案に賛成する。



(仮称)総合福祉会館関連予算 についての決議を可決

議案第47号平成17年度磐田市一般会計予算に関連する、(仮称)総合福祉会館関連予算について、9人の議員から決議案が提出されました。

決議案提出者説明要旨

この計画は旧磐田市で検討されてきたが、基本構想等について報告がなく、旧市議会で共通認識があったとはいえない。その上、旧町村の皆さんにも十分な理解を得ていない。新市まちづくり計画にある主要プロジェクトでも慎重な検討と十分な議論を行い、次の世代にも評価されるものをつくりたいという気持ちで決議を提案した。当局に対し、●建設規模や財源措置など再度検討の上明確にし、市民の十分な理解の醸成に努めること、●建設予定地は現予定地を含め再度検討すること、●検討内容の報告など議会との信頼関係を維持した上で計画を推進することの3点を強く要請する。

なお、当施設の必要性は十二分に理解しており、決して否定するものではない。

賛成25(無)、反対8(共・公・無)により可決。

討論

建設への期待を思うと賛成できない

反対(公明) 前文並びに具体的項目1及び3は提案者の説明に十分納得できるが、再度検討」とは具体的にどのような形での検討を指すのか明確でないことが気にかかる。基本構想を根本的に見直すとなれば今までの経過から考えてかなり時間がかかるものであり、いたずらに長期にわたる議論はいかがかと危惧する。

2項目めについても、基本構想が合併前のものであり、見直しの必要があると、建設予定地の再議論まで戻すことを、総合福祉会館建設のため長期間かかわってきた多くの市民に理解いただくことができるのか。

今まで建設の議論にかかわってきた多くの市民の御苦労と余りに長かった総合福祉会館建設への期待を思うと、この決議には賛成できない。本決議案に反対する。

各階層の十分な議論の上 予算執行を賛成(無所属)

周辺部から選出された議員の立場からは、何の説明もないままいきなり上程され、驚きの念を隠せない。施政方針等にも具体的計画には触れていない。建設の必要性は強く感じるが、もう少し各階層での議論を重ねた上で予算執行すべきである。

旧磐田市議会でもこの2年間は具体的に検討されておらず、旧市立病院跡地利用図も初めて示されたと聞く。新市の誕生により福祉拠点としての需要も大きく変化している。位置・規模等について再度多くの市民から意見を聞く機会を設け、17万市民の声を集約し、支所担当者を含めあらゆる角度からの検討を望む。

以上により、多少時間はかかるかも知れないが多くの人の十分な議論を重ねた上で予算執行すべきである。本決議案に賛成する。

◎(仮称)総合福祉会館関連予算についての決議

今磐田市議会6月定例会において、基本設計委託料を含めた(仮称)総合福祉会館建設に向けての関連予算が計上されている。

この計画は、昭和63年3月議会で採択された(仮称)老人福祉センター建設の請願に基づくものであり、これまで市民を含めた各界各層において議論がされてきたところである。

その中で旧磐田市議会においては、その必要性は認めるが、建設時期及び財源、そして会館が必要とする機能等において、今日まで共通認識があったとは言えなかった。併せて、この数年間は市町村合併の議論が議会でも中心となり、平成15年3月までに市民50人でのワークショップにおいてまとめられた基本構想や検討経緯についても公表されていなかった。

それらにより、建設の必要性については認識しつつも、合併の進捗を見据えてから、具体的な実現に向かうということが全体的な意向であったと考える。市民に親しまれ利用しやすい、将来、あつてよかつたと言われる会館とするためには、もう少し慎重な検討のための期間と共通の認識が必要と考える。

よって、市当局におかれては、関連予算の執行については、下記の内容に十分留意するよう強く要請する。

記

- 一 提示された基本構想は合併前のものであるため、合併後の福祉の拠点となるようなセンター機能、建設規模、財源措置などについて、再度検討の上明確にし、市民の十分な理解の醸成に努めること。
- 一 建設予定地は、旧市立総合病院跡地の全体の活用及び磐田市における公共施設の配置を踏まえ、現予定地を含めて再度検討すること。
- 一 総合福祉会館の必要性及び旧市立総合病院跡地の重要性にかんがみ、検討内容の報告や議会の意見の反映など、議会との信頼関係を維持した上で計画を推進すること。

踏み出した計画に

足かせをしないで

のではないと繰り返されたが、この決議によって市がせっかく踏み出したこの計画に足かせをすることに。

反対(無所属) 発議者は、

必要性は認める、否定するも十分な検討がされなかった



と提案説明で言っていたが、それぞれの障害等の立場から必要な機能や施設の意見を出し、ワーキンググループの報告書として当局に提出している。これをもとに市で基本構想をつくったので、検討不十分という点は当たっていない。また、議会への報告がなかったことは確かだが、多くの議員が一般質問等してきたことで詳細は十分話されてきたのではないかと思う。

磐田市の地域福祉の拠点として、総合福祉会館は必要だからこそ時期をおくらず、計画どおり執行してほしい。本決議案に反対する。

新市全体を見回しての

結論づけが必要

賛成（無所属） 今回のこの件の予算計上は少々荒っぽい手法の感がある。

機能の方向性は、十分定まつておらず、20億円の事業費は概算といえども余りに大きい感じがする。

市民の中に、本当に合併初年度にこの事業を優先して行うべきというニーズはどれだけあるだろうか。もう一度立ちどまり、かつての50人のワ

ーキングメンバー等にも状況の説明し、よく話を聞いてみることも必要かと思う。さらに、幅広く市民にアンケートをとり確認してもいいと思う。議会のみならず、幅広く新市民の理解を得るためにもっと丁寧さが欲しい。もう少し時間をかけ、議論を深める必要がある。もう一度新市全体を見回した中での結論づけが、必要であると考ええる。本決議案に賛成する。

全体的な再検討は

後退と言わざるを得ない

反対（共産）（仮称）総合福祉会館建設は、長い間住民の皆さんが待ち望み、一定の合意形成がされたものである。旧病院跡地への建設は旧磐田市総合計画や新市まちづくり計画にも盛り込まれ、住民の期待も大きい。また、この施設建設には老人クラブの願いが込められた請願が出され、全会一致で採択されている。その後長い間放置され続けたことを重く受けとめなければならぬ。障害者団体なども福祉の拠点施設建設を求める要望を出し、当施設の早期実現を求めている。

また、庁舎の空白スペースは機能的に見て高齢者等の施設としては適当でない。決議案は（仮称）総合福祉会館に

一般議案

―名誉市民条例等可決―

**名誉市民条例、表彰条例
市民賞に関する条例を制定**

名誉市民条例は、磐田市民または本市と縁故の深い方で、磐田市の発展に大きく貢献し、市民が郷土の誇りとする方を顕彰する目的で制定するものです。表彰条例は、市政の進展、芸術文化の振興、産業の開発振興、社会福祉、保健衛生等の分野に貢献した方を顕彰する目的で制定するもので、表彰は毎年4月1日に行います。市民賞に関する条例は、過去1年間において市の名誉を高め、市勢の進展に尽くした功績が顕著な市民や団体に授与する目的で制定するもので、教育、学術、スポーツ、社会福祉、保健衛生、防災、社会奉仕活動等の幅広い分野を対象としています。授与は毎年4月1日です。

.....

ついて全体的に再検討するなど、これまでの経緯から見て後退と言わざるを得ない。本決議案に反対する。

**総合計画審議会条例を制定
公募含め30人以内で組織**

3条例ともに、全会一致により可決

本案は、新市の長期的な行政運営の基本指針となる総合計画を策定するに当たり、必要な事項について調査・審議する機関として設置する磐田市総合計画審議会の所掌事務や組織等について定めるものです。審議会は、公募による委員を含め30人以内で組織し、市長の諮問に応じ、総合計画の基本構想や基本計画の骨子案の審議を行います。総合計画は、平成19年度を初年度とすることを目標に、新市まちづくり計画との整合を図りながら、さらに新たなニーズや課題を踏まえたものとして策定していく予定です。全会一致により可決。

.....

**臨時行財政改革
推進会議条例を制定**

本案は、市町村合併後の行財政改革を速やかに推進し、簡素で効率的な行財政を確立するため、各界各層の方々から意見等を伺う機関として設置する臨時行財政改革推進会議の組織等について定めるものです。推進会議は20人以内で組織し、地方分権時代にふさわしい行政システム確立のため、行政サービスのあり方などについて集中的に討議願ひ、外部の視点から答申をいただくものです。本市の行財政改革の指針となる大綱は、その推進期間を5年間とし、本年11月をめどに策定し、公表していくもので、庁内に設置する行財政改革推進本部と推進会議が両輪となって進めていきます。賛成30（公・無）、反対3（共）により可決。



特別企業16会計予算を可決

国民健康保険事業特別会計予算

市当局説明要旨

被保険者の増加や介護納付金の増額、制度改正による県調整交付金の導入等の影響を見込んだ、予算総額134億4,060万7千円を計上しました。被保険者世帯数は2万9,900世帯、被保険者数は6万1千人を見込み、疾病予防、健康保持及び増進のため人間ドック助成事業等の保健事業推進を図ります。

賛成30(公・無)、反対3(共)により可決。

討論

国保税減免制度を充実すべき

反対(共産) 国民健康保険加入者は低所得者が多く、財政基盤は脆弱である。国は、昭和59年に国庫負担率を削減し、その後も国庫支出金を減らしてきた。そのため国保税は値上げされ滞納者がふえた。滞納者に短期被保険者証や資格証明書交付は問題である。税の減免制度充実のほか、予

防重視、医療費抑制の努力も必要である。人間ドック予算は応募人数が多く抽選としたべきだ。最後に、応能割をふやし、応益割を減らすことを提案し反対する。

人間ドック、脳ドックの充実に要望

賛成(公明)

国民健康保険は、少子高齢化の進行、医療費の増額など制度の抱える構造的要因により財政的に厳しい。国保制度は、被保険者の相互扶助で成り立っていることから、負担の公平を確保し、必要に応じて短期被保険者証を発行し納付指導を行うことも必要で、資格証明書交付も画一的に行っているものではなく、当局の努力を感じる。疾病の早期発見、早期治療のため、人間ドックや脳ドック健診の充実、更なる収納率向上への積極的な取り組みを要望し賛成する。



介護保険事業特別会計予算

市当局説明要旨

介護保険特別会計予算は、事業の推進と円滑な運営に努めていくため、17年度から19年度までの介護保険事業計画に基づき、予算総額79億326万8千円を計上しました。予算編成に当たり、65歳以上の高齢者人口を3万2,048人、高齢化率は18.4%と見込みました。17年4月1日現在、介護認定を受けられている方は3,901人です。

主な事業内容は、特別養護老人ホーム等の施設へ入所・入院する方への給付1,046人分を見込んだ施設介護サービス給付費をはじめ、入浴用いす等介護福祉用具購入360件の利用を見込んだ居室介護福祉用具購入費、手すり取り付け、床や階段の改修等300件の利用を見込んだ居室介護住宅改修費等です。

全会一致により可決。

公共下水道事業特別会計予算

市当局説明要旨

公共下水道事業特別会計は、旧磐田市・福田町・竜洋町・豊田町の各地域を区域とした天竜川左岸流域関連公共下水道事業として2,618ha、旧豊岡村地域では公共下水道事業として199haの整備を進めるもので、予算総額81億79万円を計上しました。

今年度は、国庫補助事業及び起債対象市単独事業として約74haの面整備を予定しており、西貝塚、安久路、下太、豊浜中野、堀之内、富丘、立野地区等で総延長約23kmの管渠築造工事を実施します。また、旧福田町域内中川排水ポンプ場機械電気設備工事、吐出水路改修及び外構工事を行います。旧豊岡村域内では、国庫補助事業及び起債対象市単独事業として約8haの面整備を予定しており、上神増、志貫地地区で約3kmの管渠築造工事を実施します。

全会一致により可決。

水道事業会計予算

市当局説明要旨

水道事業の経営は、給水量、水道料金収入の伸び悩みに加えて老朽化施設の増加、新規事業等でさらに厳しい状況にあるため、経費の節減、業務のより一層の効率化に心がけ、円滑な事業運営に努めていき

本年度の業務予定量は、給水戸数5万5,061戸、年間総給水量1,932万2,832m³、一日平均給水量5万2,932m³を見込みます。

収益的収入額は25億5,849万7千円、収益的支出額は

は25億1,096万9千円を計上しました。

資本的収入額は6億4,047万3千円、資本的支出額は15億6,423万3千円とし、不足する財源9億2,376万円は過年度分損益勘定留保資金等で補てんするものとして計上します。

主な事業は、安全で良質な水を安定的に供給するため、水質検査、水道施設の適正な維持管理を行い、老朽管の布設替工事や主要街路開連工事等に伴う配水管工事、水源築造工事をはじめ、新たに国庫補助対象事業として水道未普及地域解消等の事業を実施します。

病院事業会計予算

市当局説明要旨

病院事業は、医師会等関係機関との連携を図りながら、地域の基幹病院として、良質な医療が効果的に提供できるよう、診療体制の充実と患者サービスの向上に努めます。

本年度の業務の予定量は、入院患者数一日平均4,544人、年間16万5,710人、外来患者数一日平均1,385人、年間33万7,940人を予定します。

収益的収入額は10億3,811万8千円、収益的支出額は1億5,381万9千円を計上しました。

また、資本的収入額は9億7,982万6千円、資本的支出額は12億8,909万9千円とし、不足する財源3億9,273千円は過年度分損益勘定留保資金等で補てんします。

本年度は、救急用CT等工ツクス線撮影装置の更新と、それに伴うCT室の工事や通院治療を要するがん患者のための外来化学療法室改造工事などを実施します。

医療制度の改革等が進められ、医療を取り巻く環境はますます厳しさを増している中、効率的な運営に心がけ、患者ニーズも踏まえ市民に信頼される病院づくりに努めます。

全体一致により可決。

国民宿舎事業会計予算

市当局説明要旨

本年度の業務予定量は、宿泊利用者年間1万4,200人、休憩利用者年間1万人を予定し、収益的収入額は1億8,231万4千円、収益的支出額は1億7,827万4千円を計上しました。

今後とも引き続き福田漁港隣接等の立地条件を生かし、魅力づくりや民間活力導入の検討など経営の効率化を推進し、利用者の満足度の向上や利用者数の増加を目指します。

全体一致により可決。



また、新市水道事業の基本となる水道事業計画の策定に着手します。

全会一致により可決。

特別会計

会計名称	平成17年度予算額	16年度予算額	1	前年対比
国民健康保険特別会計	134億4,061万円	117億9,317万円	16	億4,744万円
老人保健会計	128億9,027万円	116億4,799万円	12	億4,228万円
介護保険特別会計	79億327万円	64億4,525万円	14	億5,802万円
公共下水道特別会計	81億79万円	73億4,309万円	7	億5,770万円
その他の特別会計	2	17億2,646万円	9	億3,100万円
			7	億9,546万円

企業会計

会計名称	平成17年度予算額	16年度予算額	1	前年対比		
水道事業会計	収益	収入	25億5,850万円	28億4,399万円	2	億8,549万円
		支出	25億1,097万円	28億5,080万円	3	億3,983万円
	資本	収入	6億4,047万円	8億7,716万円	2	億3,669万円
		支出	15億6,423万円	18億743万円	2	億4,320万円
病院事業会計	収益	収入	103億7,812万円	101億3,600万円	2	億4,212万円
		支出	115億6,382万円	111億3,240万円	4	億3,142万円
	資本	収入	9億7,983万円	13億9,911万円	4	億1,928万円
		支出	12億8,910万円	17億2,621万円	4	億3,711万円
国民宿舎事業会計	収益	収入	1億8,231万円	1億7,807万円		424万円
		支出	1億7,827万円	1億7,382万円		445万円
	資本	収入	-	-		-
		支出	-	37万円		37万円

1 平成16年度予算額には、旧5市町村の当初予算合計額を記載しています。

2 その他の特別会計には、公平委員会、土地取得、交通災害共済、農業集落排水、各財産区、駐車場の各特別会計の合計額を記載しています。